

こども家庭センター

～アセスメントシートの使い方～

越谷市こども家庭センター
(愛称 : ここベース)

令和8年1月

アセスメントシート

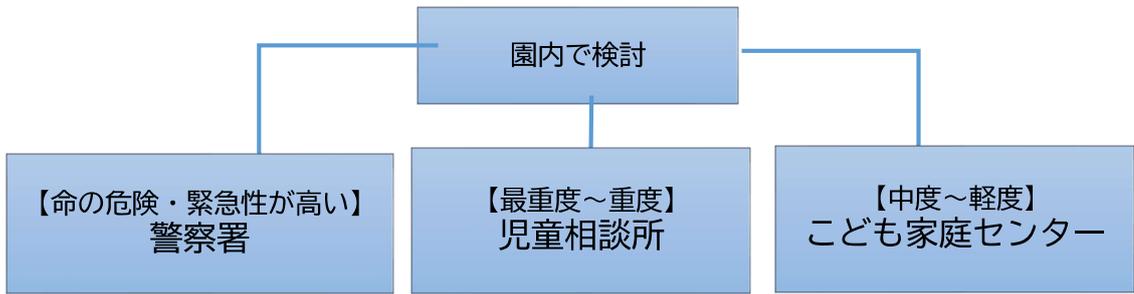
※全ての項目を埋める必要はありません。聴き取りできる範囲で結構です。
 ※性的虐待が疑われる場合は、**聴取せずに**児童相談所へ連絡してください。

記録日	令和 年 月 日 ()			記入者		
お子さん	ふりがな				生年月日	年齢
	氏名				年 月 日	才
	住所	越谷市				
	登園状況	保育園 (所) 組				
		〈出席状況〉 良好 ・ 欠席がち				
	園での様子					
特記事項	・ 障がいの有無(種類・程度・診断名等)					
家庭の状況	・ きょうだいの状況(学校、年齢等)					
	・ 同居家族の状況					
送迎の様子	送り	誰が：	時間帯：	時	分ごろ	
	迎え	誰が：	時間帯：	時	分ごろ	
虐待と思われる内容	※対象のお子さんのきょうだいと同じ園にいる場合は全員に確認					
	・ いつ (〇月〇日〇時頃) ・ どこで ※直近の事案					
	・ 誰に、何を、されたか					
	・ なぜ、されたか (原因・理由)					
	・ いつごろ (〇年〇月頃) から、どのくらいの頻度か(毎日、週〇回、〇ヶ月に1回など)					
・ 外傷等の状況 (傷痕の大きさ、色など) ※ほかに傷がないか全身確認を行い、必要に応じスケッチや写真撮影を実施						
園の対応	・ 写真の提供 (有 ・ 無)				・ 面談場所の提供 (可能 ・ 不可能)	

リスクアセスメント

1. 現在の虐待の状況			該当…○ 疑い…△
身体的虐待	最重度	継続的な治療を要する頭部・頸部・胸部・腹部の外傷。入院を要する頭部・頸部・胸部・腹部以外の外傷。乳幼児揺さぶられ症候群。首絞め。親子心中。	
	重度	継続通院を要する頭部・頸部・胸部・腹部以外の外傷。受傷状況不明の骨折。熱中症、低体温症を招く放置。	
	中度	継続通院は要しないが治療が必要な傷。繰り返しあざ・傷がある。	
	軽度	治療の必要はない程度の外傷。暴力を振るいそう（振ってしまった）との訴え。	
ネグレクト	最重度	脱水、栄養不足による衰弱。生命に関わる医療拒否。乳幼児だけで長時間いる。遺棄。	
	重度	成長・発達に著しい影響。必要な医療を受けさせない。衣食住が不十分で健康に問題。ライフラインが全部停止。昼夜問わず乳幼児と学齢児だけで長時間いる。	
	中度	衣食住が不十分で健康を害するおそれ。ライフライン一部停止。夜間、学齢児のみでいる。登校禁止。	
	軽度	健康問題が生じない程度の衣食住の欠如。障害に対する療育不足。	
心理的虐待	重度	養育者の自殺企図、自傷に度々さらされている。または、心中・自殺を促される。	
	中度	無視、暴言、乱暴な扱い、締め出し等の不適切な関わりによる情緒的な影響。児童の面前で激しいDVやけんか。強い拒否感。	
	軽度	児童に対する拒否感。無視、暴言、乱暴な扱い、締め出し等。児童の面前でDVやけんか。きょうだい間の差別的な扱い。	
性的虐待	性的虐待が疑われる場合は、 隠取せず に児童相談所へ連絡		

2. 通告先の検討



対応記録	通告日		通告先	
	担当者			
	指示・助言内容等			

子どもの様子

- よくケガをしてくるが、原因がはっきりしない、手当てが十分でない
- 打撲によるあざ、火傷などの不自然な傷がよく見られる
- 特別な病気もないのに、身長や体重の増加が悪い、あるいは次第に低下している
- 着衣が薄汚れていたり、季節や気温にそぐわない服装をしていたりする
- 長期間、入浴をしていない
- 服装や顔、髪の毛、手足、口腔内が不潔である
- 表情や反応が乏しく、元気がない
- 基本的な生活習慣が身に付いていない
- おやつや給食をむさぼるように食べる、おかわりを何度も要求する
- 理由のはっきりしないまたは連絡のない遅刻や欠席が多い
- 転んだケガをしたりしても泣かない、助けを求めない
- おびえた泣き方をする
- 身体接触を異常にいやがる(抱こうとすると逃げる、身を固くするなど)
- いつもおどおどしていて、何気なく手を挙げて身構える
- 職員を試したり、独占したりしようとし、まとわりついて離れない
- ささいなことでもすぐカーツとなり、友人への乱暴な言動がある
- 親が迎えに来ても帰りたがらない
- 年齢不相応な性格や言葉や、性的な行動が見られる

保護者の様子

- 子どもとの関わりが乏しかったり、冷たい態度をとったりする
- 子どもへの怒り方が異常である
- 子どもの要求をくみ取ることができない
- (要求を予想したり理解したりできない、なぜ泣くのかわからない)
- 子どもが新しい遊びや遊具に関心を持つことを好まない
- 子どものことを自分と対等な存在と感じ、自分を脅かす存在と見ている
- 乳幼児期から甘やかすのはよくないと極端に強調する
- 自分の思いどおりにならないとすぐに体罰を加える
- 子どもに心理的に密着しすぎるか、全く放任か極端である
- 子どもに能力以上ことを無理やり押しつけようとする
- 保護者の極端ないらだち、不安定がある
- 被害者意識が強かったり、イライラしたいしている
- 保育士や教師との面談や家庭訪問を拒む

- 保育士や教職員に対して過度に攻撃的(ささいな非を追求する)
- 子どもを無断で欠席させることが多い
- 予防接種や健康診断を受けさせない
- 家の中が乱雑・不衛生
- 夫婦仲が悪い
- 地域の中で孤立している
- 母親にも暴行を受けた傷がある

あざ・傷を発見した際の写真撮影について

子ども虐待対応上の留意点

◆写真記録の留意点

傷のサイズが分かるように場所によっては上から横からなど立体的に分かるように複数撮影する

被写体人物が特定できるような全体像から傷の詳細な写真までを連続して撮る

顔や頭部 顎などのケガは正面 側面 上下 など複数方向からの撮影をしておく

通常 2000万画素程度のデジタルカメラで フラッシュなしで撮影する

